

タイトル

世界へ向けて「日本への弟子入り」を募る「TERAツーリズム」

応募者

角田 健司さん（東京都、公益法人勤務）

アイデアについて

① アイデアのタイトル

世界へ向けて「日本への弟子入り」を募る「TERA ツーリズム」

②アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200字以内でお書き下さい。）

IT化、グローバル化が進む中「こころの哲学」が重要視されるこれからの世界。それを自然に持つ日本に、世界から弟子入りを募り、過疎地の寺がそれを引き受けます。

長期滞在型の体験学習ツアーとして、寺で僧侶と日常生活を共にしながら、「日本のこころ」を学びます。いずれは「日本のこころ」を身につけた弟子たちが、異なるカルチャーを混交させながら、過疎地域に新しい日本の文化を創り、世界に発信することを目指します。

③アイデアの内容（できるだけ具体的にお願い致します。）

添付参照

世界へ向けて「日本への弟子入り」を募る「TERAツーリズム」

アイデアの背景

寿司の世界食化と和食の無形文化遺産化をはじめ、クールジャパン、カワイイ、アニメという日本の文化。そして日本人のマナー。グローバル化とネット社会化が世界を覆うこの時代、日本は世界から称えられる国になってきています。

観光客数を見ても、輸出品目を見ても、まだこれは局地的な現象と言えそうですが、一つの波になりつつあるのも間違いないでしょう。



21世紀に入り、IT、ネットは急速な普及と進化をはじめています。これからの10年、20年の間に社会は劇的に変化をしていくことが予測されます。

安全・医療技術の進化などにより事故、病気は減少し、高齢者人口は更なる増加を見、生涯可処分時間もあわせて増加し、自分と向き合う時間も増えていくでしょう。

ヴァーチャル、拡張現実がリアルな社会の中で共存し、コンピュータがあらゆるものに組み込まれ、ロボット（自動制御）が生活に溶け込んでくる中で、従来とは比較できない多様な情報、多角的なコミュニケーションが日常的になされるようになっていくでしょう。

そしてグローバル化がますます進み、情報は世界中で相互参照されるようになり、世界は同じ方向を向いて進むようになり、均質化していく。

そういう流れになるにつれ、簡単には身につけられない「こころの哲学」が大切なものと思われていくのではないのでしょうか。思いやり、おもてなし、お互い様……の「こころ」がもたらす美德と、そこから生まれる文化が重要視されるようになるのではないのでしょうか。

そして、自然にそれらを包み込んで生きてきた日本という存在が、世界から改めて注目されるのではないのでしょうか。



さて一方で、仏教(寺)はまだ葬式仏教のイメージが強く、墓参り、盆踊り、除夜の鐘の時以外は、なかなか足が向かないでいるのが一般的です。

そして過疎地域のお寺は、更に、寺の荒廃、人手／後継者不足、檀家減少、無縁となった墓の維持などの課題を大なり小なり抱えていると考えられます。

そして地域全体も、概ねアクセスがよくなり、近い将来ますます高齢化、孤立化が進み、地方のブランド化の波からも取り残されてしまうでしょう。



しかし、「日本のこころの哲学」を伝道するとすれば、それはお寺の僧侶の方々にこそ相応しいのではないかと。また一見デメリットと思える、過疎地域とそのお寺の状況が、メリットとして活用できる途があるのではないかと考え思いついたのがこのアイデアです。

21世紀＝
こころの哲学が重
要視される時代に

日本の
こころの哲学、美德、
文化が求められる

誰がその担い手に
なれるか？

世界へ向けて「日本への弟子入り」を募る「TERAツーリズム」

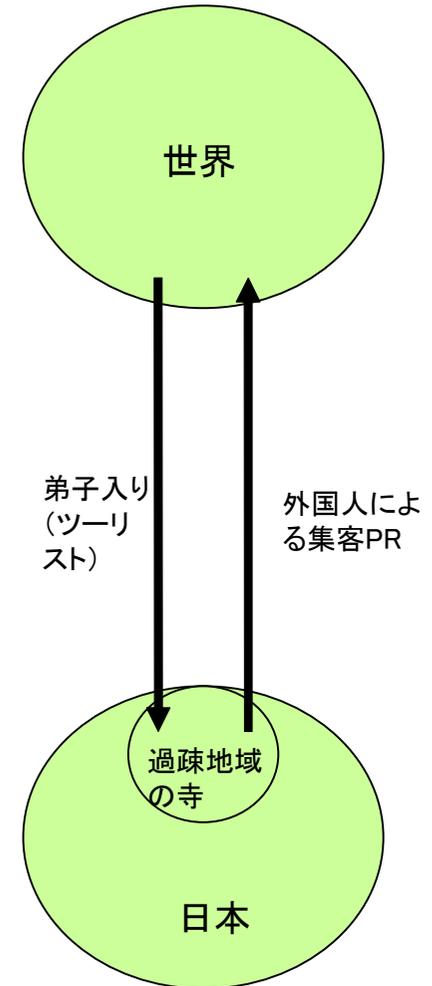
提案内容

世界へ向けて「日本への弟子入り」をPRし、過疎地域のお寺をその受け入れ先にし、それを「TERAツーリズム」と呼ぶ。そんなアイデアを提案します。

◆
国の枠組みを超えて、世界が一つの広大な地域となっていくこれからの社会。その中で、21世紀の私たちが重要視すると考えられる、自分を成り立たせ、コミュニケーションを成り立たせ、文化を芽生えさせる、そのもととなる「こころの哲学」。それを自然に身に付け、美点としている日本に対し、世界から弟子入りを募り、長期滞在の中で体験的に「日本のこころの哲学」を身につける場と機会を提供します。

◆
大きな特徴はないものの、長い間変わらない生活を守り続けてきた「日本らしさ」の強く残る過疎地域。そしてそこのお寺に、世界から「日本のこころ」に弟子入りしたい人たちを集客しましょう。信徒になってもらい、檀家になってもらい、日本に弟子入りしてもらい、寺に長期滞在しながら、寺の日常を手伝いながら、「日本」を教わる。だからこれは「寺」から「TERA」へ。その概念を拡げることによって行なう「未来に向けた種まき」プロジェクトです。コンセプトは「日本への弟子入り」。国籍・人種は違えど、「日本のこころ」を持った人たちを未来の世界のために育成しましょう。ひいては、日本のこころを持った世界の人たちが、自分たちのカルチャーを混交させながら、過疎地域を通して、新しい日本の文化を創り、それを世界に改めて発信していく、そういうステップアップができればと思います。それがTERAツーリズムのコンセプトであり、ビジョンです。

◆
僧侶の方が「日本」の伝道師としてのミッションを受け持つ。法話を通して哲学を語り、地域に根ざし生活を見つめてきた僧侶の方々こそ、このミッションを受け持つにふさわしい存在だと思います。ごく小さな日常のなりわい。四季折々の表情。そういった生活や地域に密着したものごとの意味を普遍的な言葉で語っていただく。「日本のこころ」をめぐる講義もしてもらい。いずれは近隣住民の方々もアシスタントに加わり、地域全体にウエルカムな風土が定着したら、地域全体でツーリズムを支え、お寺が事務局兼スクール役になる。ツーリストは旅費+αでツーリズムに参加し、少なくとも1ヶ月程度の長期滞在で、お寺で宿泊をする。そして僧侶と共に掃除、洗濯、食事の準備や地域住民とのコミュニケーションに参加しながら、その意味(型と形)を教わっていく。お寺の美化、改善が必要ならその手伝いもする。そして、地域の中の「美点」が見つかったなら、それを世界に発信するというミッションを受け持つてもらい。



提案内容(つづき)



当初は、カタコトの日本語が話せる人を募り、お寺も、カタコトの英語が話せる所がいいかもしれません。また、プロジェクトの立上げ段階では、例えば国内の日本語学校、外国語学校等に声をかけ、PRチームを兼ねて体験ツアーに参加してもらいましょう。そして、その地域の魅力、ツアーの魅力を映像、音声ガイド等に収めてもらい、それを世界に向けて配信(Youtube、SNS等)しましょう。それが最大の集客の呼び水になるでしょう。



そしてこの「TERAツーリズム」の実施により、過疎地域にさまざまな人たちが訪れ、共に生活をするようになれば、地域全体に間違いなく活性化が生まれます。いずれ、観光との共創による「新しい価値創造」が成されれば、過疎地域が「グローバル・エリア」として、すなわち世界に向けて開かれた、独自性を持つローカルエリアとして一気に世界の注目を集めるのも夢ではないでしょう。